

# 飛蚊症



眼科医師  
永田 真裕子

山香病院だより vol.39

飛蚊症(ひぶんしょう)とは、明るいところや白い壁、青い空などを見たときに、眼の前に蚊や黒い糸くずのような浮遊物が飛んでいるように見える症状のことをいいます。通常は視線を動かしたらその動きについて移動し、暗いところでは気になりません。

では、その正体は何なのでしょう。眼球の中には硝子体というゼリー状の透明な物質がつまっています。角膜と水晶体を通して外から入ってきた光は、この硝子体を通して網膜(物を見る為の神経の膜)まで達します。ところが、硝子体に何らかの原因で濁りが生じると、明るいところを見た時にその濁りの陰が網膜に映り、眼球とともに揺れ動き、あたかも虫や糸くずなどの浮遊物が飛んでいるように見えます。この濁りには、生理的な原因によるものと、病的な原因によるものがあります。

歳を取ると硝子体はゼリー状から液状に変化し、硝子体は次第に収縮して網膜から剥がれます(後部硝子体剥離II図1)。この後部硝子体剥離にともない硝子体に濁りがでることがありますが、このような変化による飛蚊症は生理

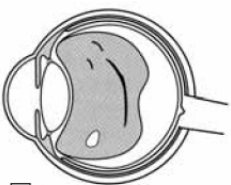


図1

的な現象であり心配はありません。

しかし、網膜裂孔・網膜剥離(網膜に穴があき、剥がれる)、硝子体出血(眼球内への出血)、ぶどう膜炎(眼球内の炎症)などの初期症状で飛蚊症があらわれる事もあります。これらの病気による飛蚊症の場合はなるべく早く治療を行わねばなりません。

飛蚊症の症状に気がついたら、その原因が生理的なものなのか、病気なのかを自分で

判断せず、眼科で検査を受けましょう。生理的なもので心配ないと診断された場合でも、飛蚊の数が増えたり症状に変化があった場合は、網膜裂孔が新たにできた可能性などがありますので、再度眼科を受診する必要があります。この症状で眼科を受診される場合、目薬で瞳孔を開いて(散瞳)、眼底検査を行います。散瞳すると4〜5時間焦点が合わない感じになり見にくくなりますので、ご自分で自動車を運転せず、公共の交通機関や自転車などに連れてきてもらうことをお勧めします。

